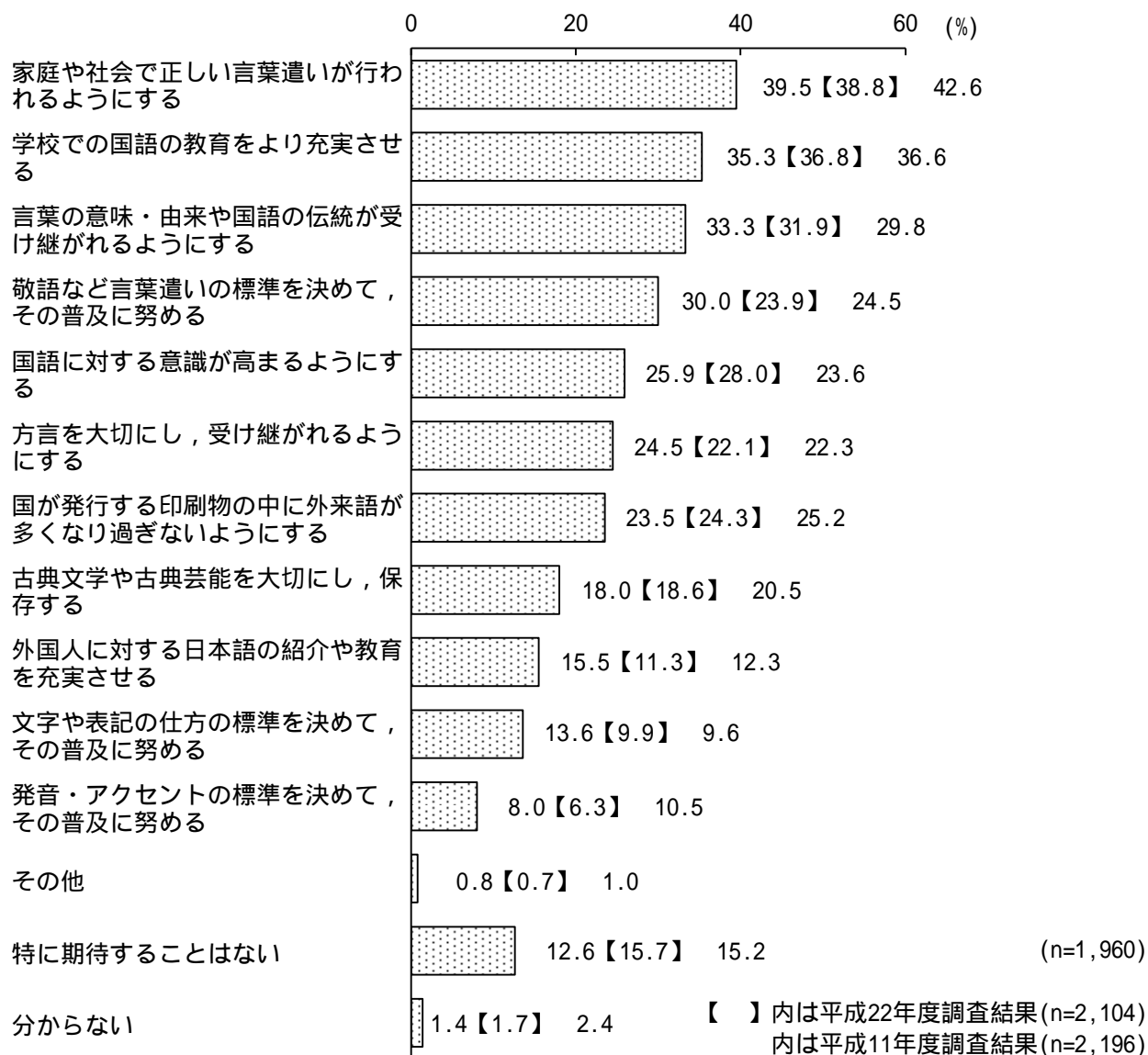


「国語に関する世論調査」における国語の課題についての調査結果の例

- H30 Q2 あなたは、国語に関して、国に期待することがありますか。ここに挙げた中にあれば幾つでも選んでください。また、このほかにあれば、具体的に答えてください。…… P.2
- H28 Q6 あなたは、言葉や言葉の使い方に関して、困っていることや気になっていることがありますか。ここに挙げた中にあれば幾つでも選んでください。…… P.4
- H28 Q7 あなたは、社会生活を送っていく上でどのような言葉に関わる知識や能力などがこれからの時代、特に必要であると思いますか。この中から一つ選んでください。…… P.6
- H27 Q19 パソコンや携帯電話(スマートフォン含む)などの情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けるのではないかという意見がありますが、あなたはどう思いますか。……
… P.8
- H24 Q9 国語に関わる知識や能力について、社会全般において、どのような点に課題があると思いますか。この中から三つまで選んでください。…… P.10
- H24 Q10 それでは、あなた自身については、どのような点に課題があると感じていますか。この中から三つまで選んでください。…… P.12

H30 Q2 国語に関して国に期待すること

問2〔回答票〕あなたは、国語に関して、国に期待することがありますか。ここに挙げた中にあるれば幾つでも選んでください。また、このほかにあれば、具体的に教えてください。



国語に関して、国に期待することを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

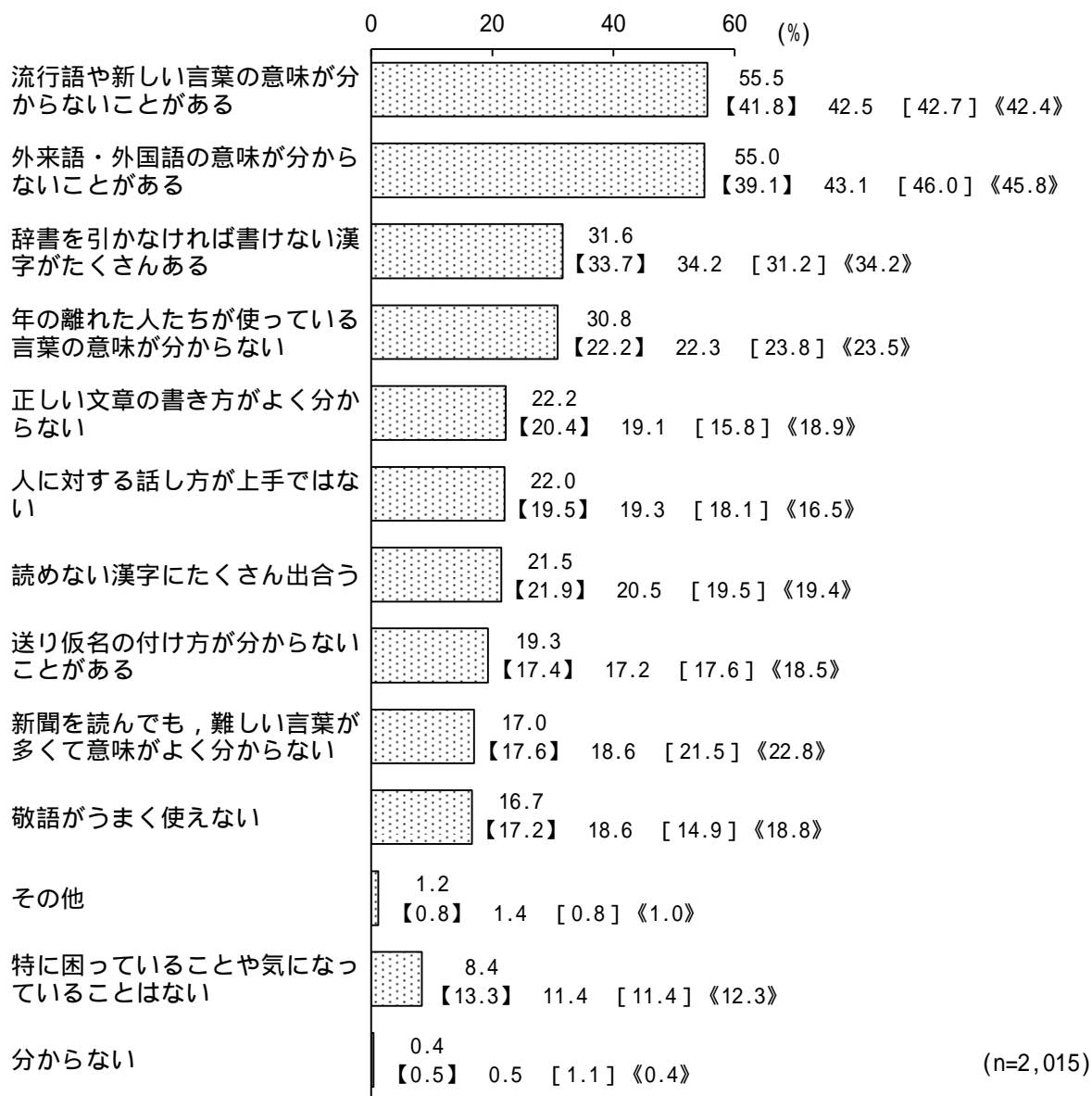
「家庭や社会で正しい言葉遣いが行われるようにする」が39.5%で最も高く、以下、「学校での国語の教育をより充実させる」(35.3%)、「言葉の意味・由来や国語の伝統が受け継がれるようにする」(33.3%)、「敬語など言葉遣いの標準を決めて、その普及に努める」(30.0%)、「国語に対する意識が高まるようにする」(25.9%)、「方言を大切にし、受け継がれるようにする」(24.5%)、「国が発行する印刷物の中に外来語が多くなり過ぎないようにする」(23.5%)、「古典文学や古典芸能を大切にし、保存する」(18.0%)、「外国人に対する日本語の紹介や教育を充実させる」(15.5%)、「文字や表記の仕方の標準を決めて、その普及に努める」(13.6%)、「発音・アクセントの標準を決めて、その普及に努める」(8.0%)となっている。一方、「特に期待することはない」と答えた人は12.6%となっている。

過去の調査結果（平成11、22年度）と比較すると、平成22年度調査から今回調査に掛けて「敬語な

ど言葉遣いの標準を決めて、その普及に努める」が6ポイント、「外国人に対する日本語の紹介や教育を充実させる」「文字や表記の仕方の標準を決めて、その普及に努める」が4ポイント、それぞれ増加している。

H28 Q6 言葉遣いで困っていること

問6〔回答票〕あなたは、言葉や言葉の使い方に関して、困っていることや気になっていることがありますか。ここに挙げた中にあれば幾つでも選んでください。



【 】内は平成22年度調査結果(n=2,104)
 内は平成18年度調査結果(n=1,943)
 []内は平成15年度調査結果(n=2,206)
 《 》内は平成11年度調査結果(n=2,196)

* : 平成11年度調査は「国語に関して困っていることがありますか」と尋ねた。

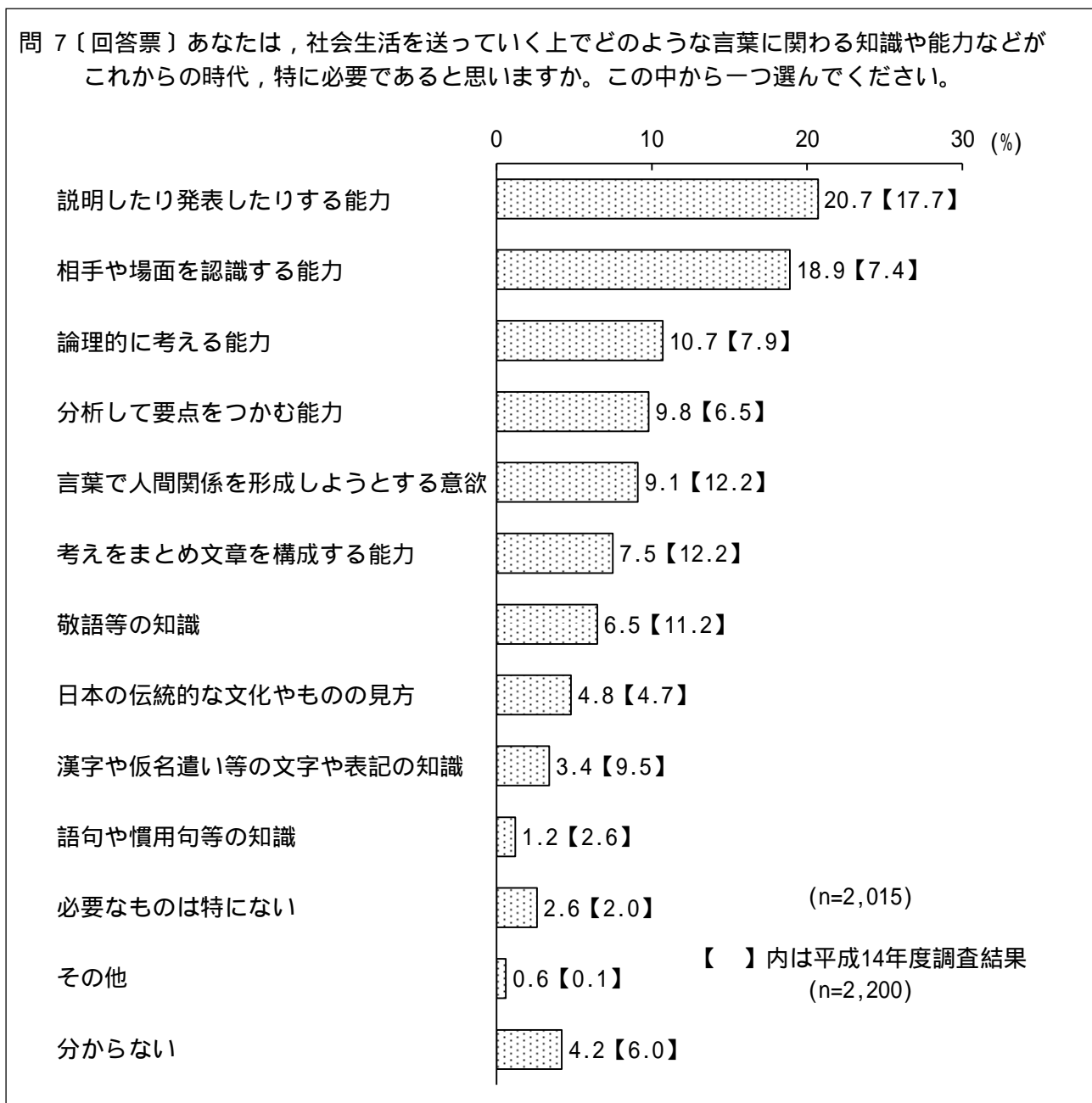
言葉や言葉の使い方に関して、困っていることや気になっていることは何かを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）。

「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある」が55.5%で最も高く、次いで「外来語・外国語の意味が分からないことがある」が55.0%となっている。以下、「辞書を引かなければ書けない漢字がたくさんある」(31.6%)、「年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない」(30.8%)、「正しい文章の書き方がよく分からない」

い文章の書き方がよく分からない」(22.2%)、「人に対する話し方が上手ではない」(22.0%)、「読めない漢字にたくさん出会う」(21.5%)、「送り仮名の付け方が分からないことがある」(19.3%)、「新聞を読んでも、難しい言葉が多くて意味がよく分からない」(17.0%)、「敬語がうまく使えない」(16.7%)となっている。また、「特に困っていることや気になっていることはない」は8.4%となっている。

過去の調査結果(平成11, 15, 18, 22年度)と比較すると、「流行語や新しい言葉の意味が分からないことがある」「外来語・外国語の意味が分からないことがある」は、過去4回の調査でも上位2位までに挙げられているが、平成22年度調査から今回調査に掛けて14~16ポイント増加している。「年の離れた人たちが使っている言葉の意味が分からない」は、平成22年度調査から今回調査に掛けて9ポイント増加している。

H28 Q7 今後必要な言葉に関わる知識や能力など



社会生活を送っていく上でどのような言葉に関わる知識や能力などがこれからの時代、特に必要であると思うかを尋ねた。

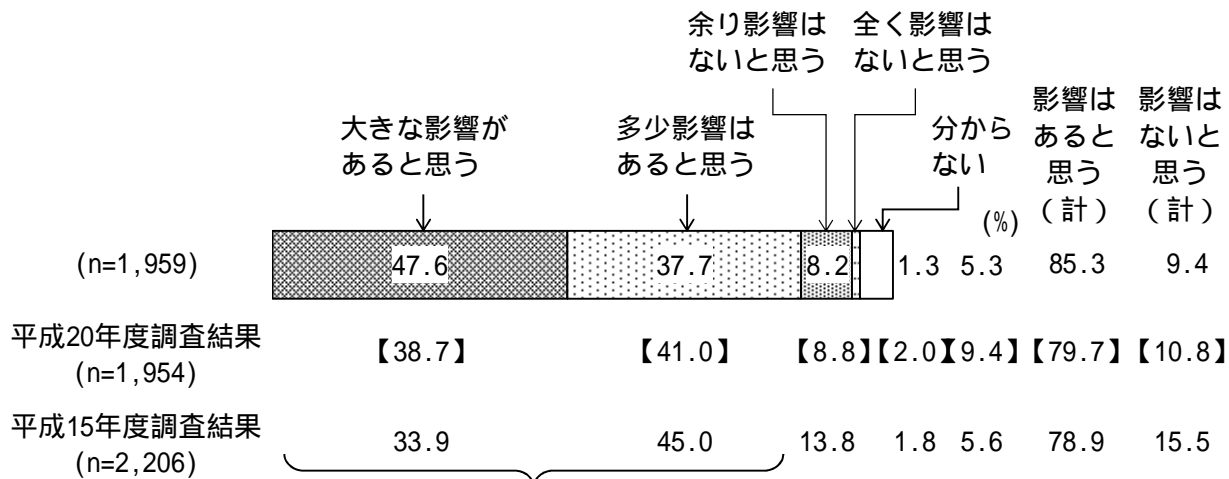
「説明したり発表したりする能力」が20.7%で最も高く、次いで「相手や場面を認識する能力」が18.9%となっている。以下、「論理的に考える能力」(10.7%)、「分析して要点をつかむ能力」(9.8%)、「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」(9.1%)、「考えをまとめ文章を構成する能力」(7.5%)、「敬語等の知識」(6.5%)、「日本の伝統的な文化やものの見方」(4.8%)、「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」(3.4%)、「語句や慣用句等の知識」(1.2%)となっている。また、「必要なものは特にない」は2.6%となっている。

過去の調査結果(平成14年度)と比較すると、「相手や場面を認識する能力」は12ポイント増加、「説明したり発表したりする能力」「論理的に考える能力」「分析して要点をつかむ能力」は、それぞれ3ポ

イント増加している。一方、「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」「考えをまとめ文章を構成する能力」「敬語等の知識」「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」は、それぞれ3~6ポイント減少している。

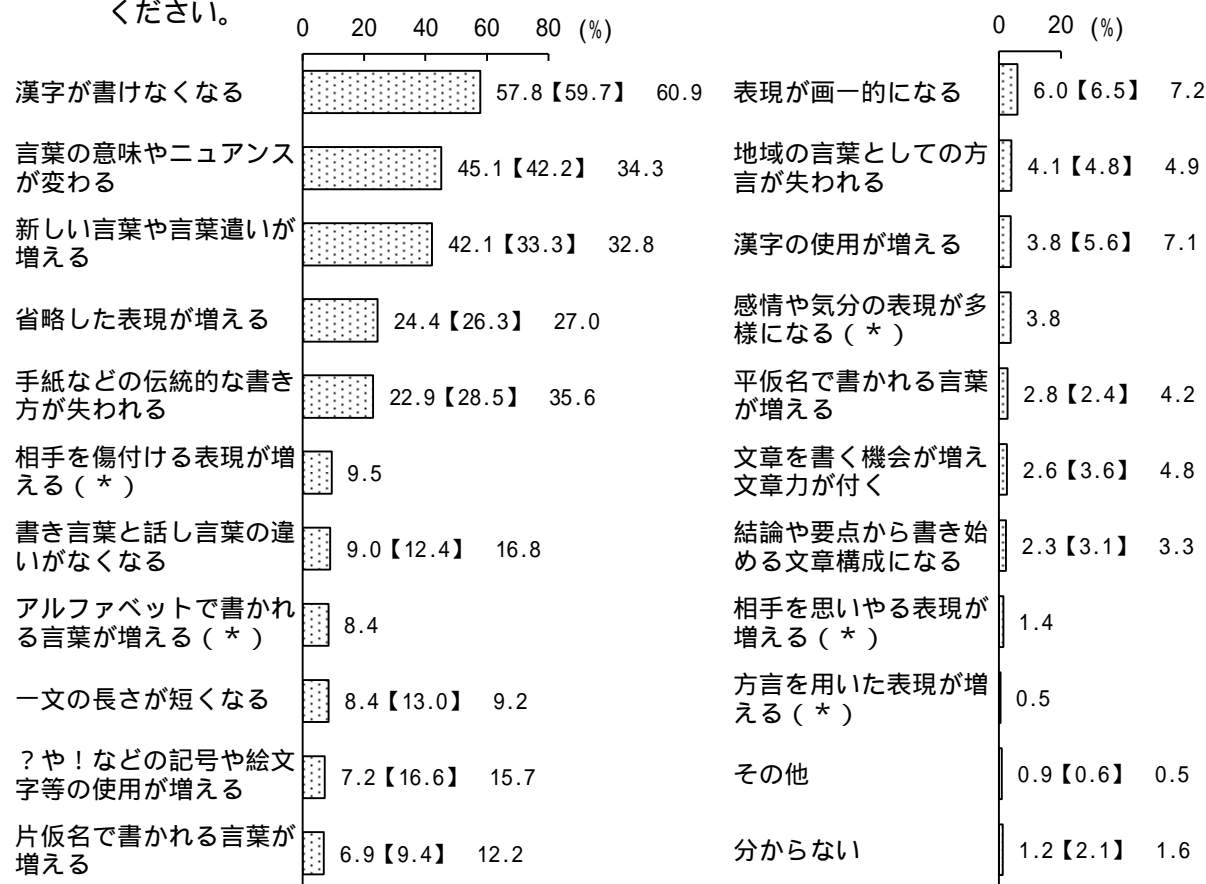
H27 Q19 情報機器の普及は言葉遣いに影響すると思うか

問 19〔回答票〕パソコンや携帯電話（スマートフォン含む）などの情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けるのではないかという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



(「大きな影響があると思う」「多少影響はあると思う」と答えた人に)

付問〔回答票〕では、どのような形で影響があると思いますか。この中から三つまで挙げてください。



* : 平成15,20年度調査は、選択肢になかった。

【 】内は平成20年度調査結果(n=1,558)
内は平成15年度調査結果(n=1,740)

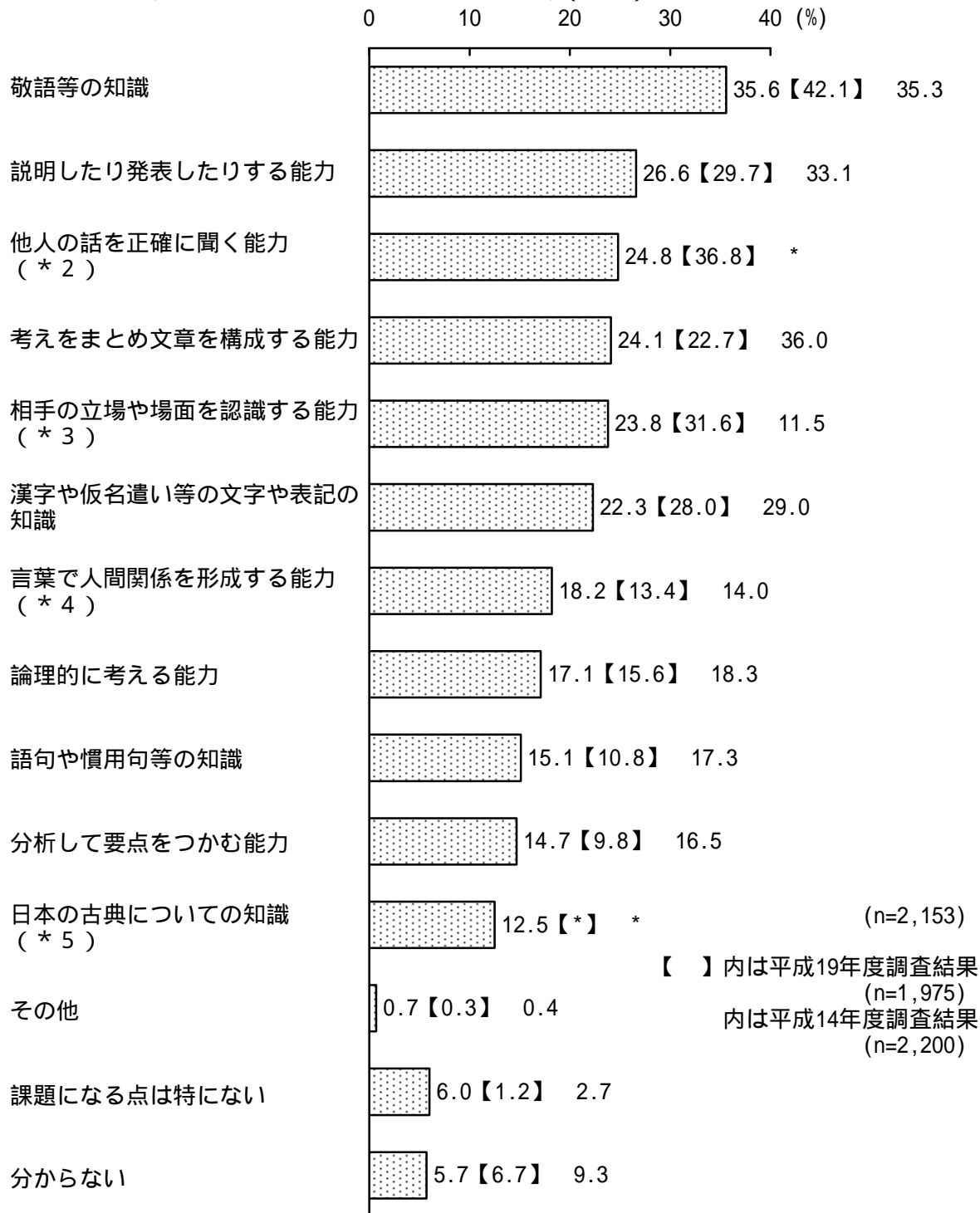
パソコンや携帯電話（スマートフォン含む）などの情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うかを尋ねた。【75 ページ参照】

「大きな影響があると思う」（47.6%）と「多少影響はあると思う」（37.7%）を合わせた「影響はあると思う（計）」は 85.3%となっている。一方、「全く影響はないと思う」（1.3%）と「余り影響はないと思う」（8.2%）を合わせた「影響はないと思う（計）」は 9.4%となっている。

過去の調査結果（平成 15, 20 年度）と比較すると、「影響はあると思う（計）」は平成 20 年度調査から今回調査では 6 ポイント増加している。

H24 Q9 国語に関わる知識や能力についての課題（社会全般）

問9〔回答票〕国語に関わる知識や能力について、社会全般において、どのような点に課題があると思いますか。この中から三つまで選んでください。（*1）



*1：平成19年度，平成14年度調査は，「日本人の国語力について，あなたは，社会全般においてどのような点に課題があると思いますか。」と質問した。
 *2：平成14年度調査では，選択肢になかった。
 *3：平成14年度調査は，「相手や場面を認識する能力」
 *4：平成19年度調査，平成14年度調査は，「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」
 *5：平成19年度調査，平成14年度調査では，選択肢になかった。

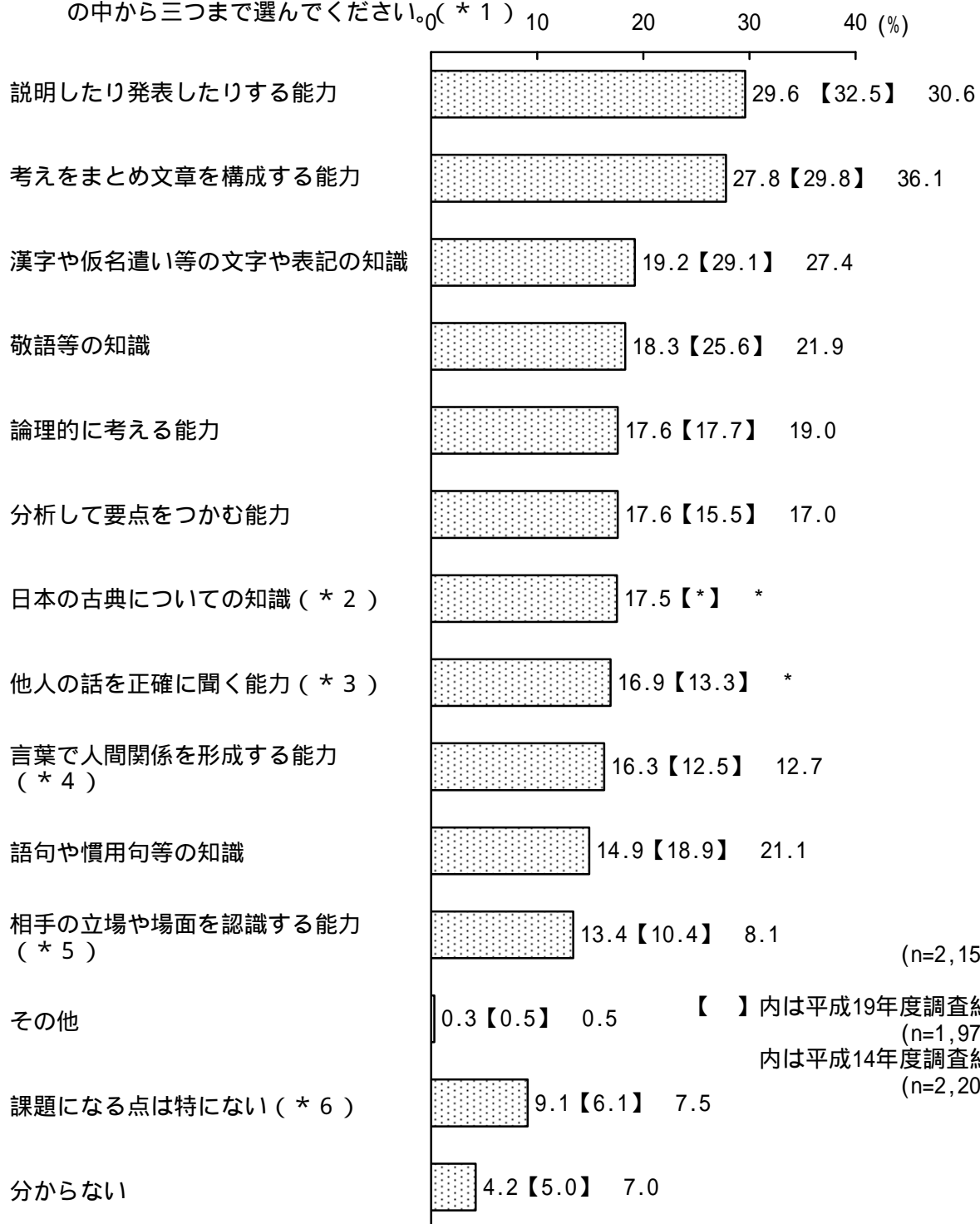
国語に関わる知識や能力について，社会全般として，どのような点に課題があるかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「敬語等の知識」が35.6%で最も高くなっている。以下，「説明したり発表したりする能力」(26.6%)，「他人の話を正確に聞く能力」(24.8%)，「考えをまとめ文章を構成する能力」(24.1%)，「相手の立場や場面を認識する能力」(23.8%)，「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」(22.3%)，「言葉で人間関係を形成する能力」(18.2%)，「論理的に考える能力」(17.1%)，「語句や慣用句等の知識」(15.1%)，「分析して要点をつかむ能力」(14.7%)，「日本の古典についての知識」(12.5%)となっている。また，「課題になる点は特にない」は6.0%である。

平成14年度，19年度に行った過去2回の調査結果との比較は，質問の仕方及び選択肢に変更があるので，飽くまで参考として掲げるものである。

H24 Q10 国語に関わる知識や能力についての課題（自分自身）

問 10〔回答票〕 それでは、あなた自身については、どのような点に課題があると感じていますか。この中から三つまで選んでください。(* 1)



- * 1 : 平成19年度調査,平成14年度調査は,「日本人の国語力について,あなた自身は,どのような点で自信を持てませんか。」と聞いた。
- * 2 : 平成19年度調査,平成14年度調査では,選択肢になかった。
- * 3 : 平成14年度調査では,選択肢になかった。
- * 4 : 平成19年度調査,平成14年度調査は,「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」
- * 5 : 平成14年度調査は,「相手や場面を認識する能力」
- * 6 : 平成19年度調査,平成14年度調査は,「自信を持ってない点は特にない」

国語に関わる知識や能力について、自分自身としては、どのような点に課題があるかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「説明したり発表したりする能力」が29.6%で最も高く、次いで「考えをまとめ文章を構成する能力」が27.8%となっている。以下、「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」（19.2%）、「敬語等の知識」（18.3%）、「論理的に考える能力」「分析して要点をつかむ能力」（各17.6%）、「日本の古典についての知識」（17.5%）、「他人の話を正確に聞く能力」（16.9%）、「言葉で人間関係を形成する能力」（16.3%）、「語句や慣用句等の知識」（14.9%）、「相手の立場や場面を認識する能力」（13.4%）となっている。また、「課題になる点は特にない」は9.1%である。

平成14年度、19年度に行った過去2回の調査結果との比較は、質問の仕方及び選択肢に変更があるので、飽くまで参考として掲げるものである。

先に尋ねた社会全般における国語に関わる知識や能力についての課題の回答と比較すると【27ページ参照】、自分自身の課題で最も割合の高い「説明したり発表したりする能力」（29.6%）と次いで高い「考えをまとめ文章を構成する能力」（27.8%）は、社会全般でも26.6%、24.1%の人が課題として挙げている。一方、「敬語等の知識」（18.3%）、「他人の話を正確に聞く能力」（16.9%）、「相手の立場や場面を認識する能力」（13.4%）は、自分自身の課題として挙げた人の割合が1割台となっているが、社会全般の課題として挙げた人の割合では、順に35.6%、24.8%、23.8%と高い。